

1.1.3 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server）データ移行手順

つながり。驚きを。幸せを。



■ 前提条件および注意事項

- 移行元に展開したミドルウェア、アプリケーション等は移行先に新規にインストールする必要があります。ミドルウェア、アプリケーション等の移行手順は、提供元のベンダーにお問合せください。
- 本手順では、データ移行にデータボリュームを利用します。
- 本手順では、バックアップおよびリストア作業に、Arcserve Unified Data Protectionを利用します。
※ArcserveUDPをご利用時には、Arcserveライセンスの新規申込方法をご実施お願いします。
手順については、以下チュートリアルをご参照ください。
(URL : <https://sdpf.ntt.com/services/docs/arcserve/tutorials/create3.html#arcserve-udp>)
- 移行作業にかかる時間は、データの容量やネットワーク環境によって異なります。

1.1.3 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server）データ移行手順

つながり。驚きを。幸せを。



■ 移行作業内容

1. 移行先サーバーの作成
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成
3. Arcserveの導入
4. バックアップ作業
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行
6. リストア作業
7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

1. 移行先サーバーの作成

以下リンクを参照して、移行先サーバーを作成します。
[サーバーインスタンス構築手順](#)

2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

以下リンクを参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを作成します。
[データボリュームの新規作成](#)

作成するデータボリュームは、以下の通りです

- ・ボリュームソース : ソースの指定なし(空のボリューム)
- ・サイズ : 移行元インスタンス作成時のデータボリュームの容量
- ・ボリューム種別 : Type-A

以下リンクの「4.1.2インスタンスへのデータボリュームのアタッチ」を参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを移行元サーバのインスタンスへ接続します。

[4.1.データボリュームの新規作成方法 - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

※ボリュームのアタッチ/デタッチは仮想サーバーインスタンスを“停止”した状態で行ってください。
<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

SDPFポータルへログインし、[仮想サーバー]>[サーバーインスタンス]>[インスタンス]メニューを開きます。



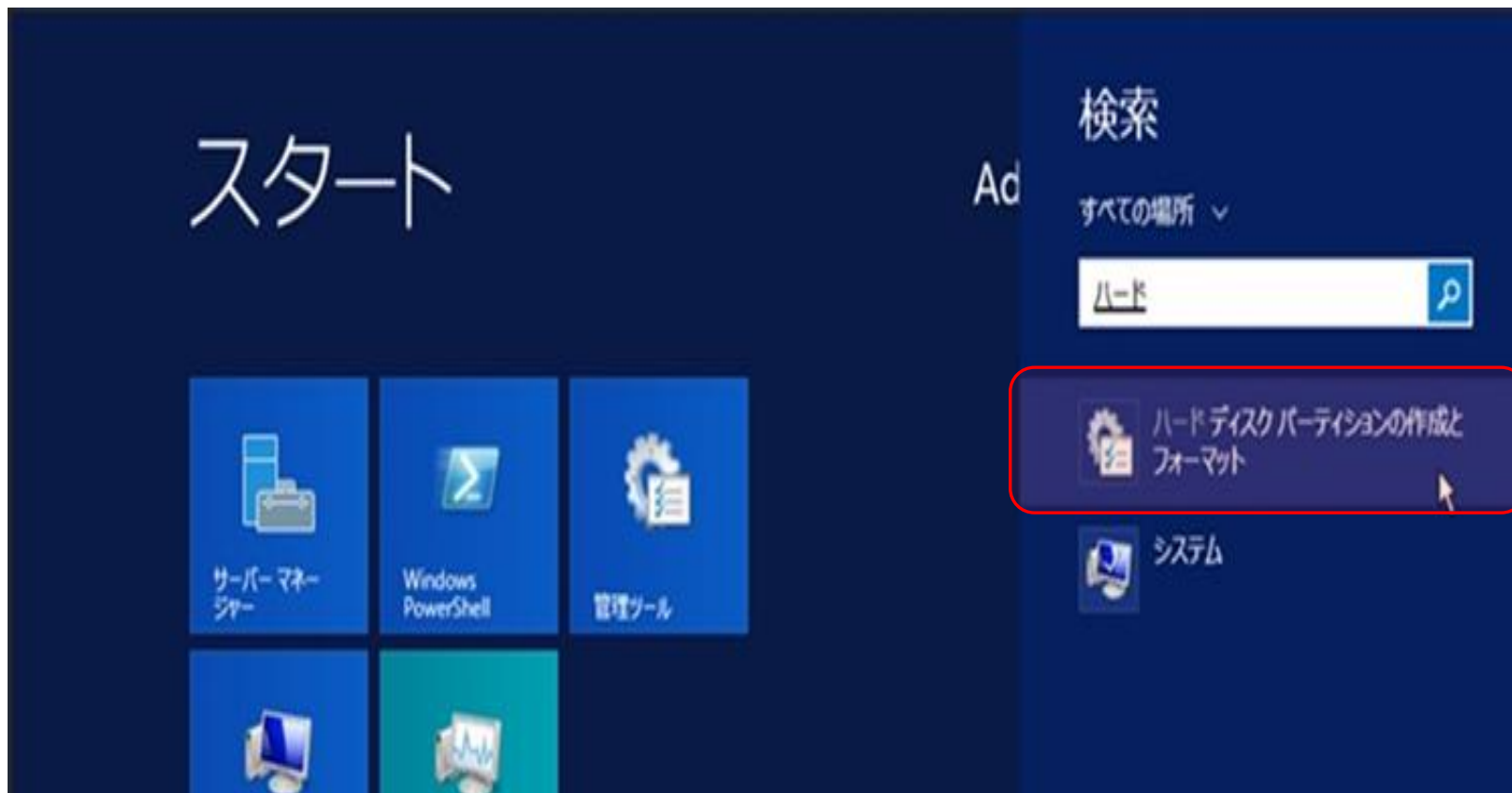
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

移行元サーバを選択し、詳細画面を開き、[コンソール]タブを選択します。

The screenshot displays the 'Smart Data Platform' interface for 'docomo Business'. The top navigation bar includes the 'Smart Data Platform' logo, the 'docomo Business' logo, and a 'メニュー' (Menu) dropdown. The main content area is titled 'インスタンスの詳細:' (Instance Details). On the left, a sidebar menu lists 'テナント情報' (Tenant Information), '仮想サーバー' (Virtual Server), '物理サーバー' (Physical Server), and 'ハイパーバイザー' (Hypervisor). Below the title, there are three tabs: '概要' (Overview), 'セキュリティグループ' (Security Group), and 'コンソール' (Console). The 'コンソール' tab is highlighted with a red rectangular border.

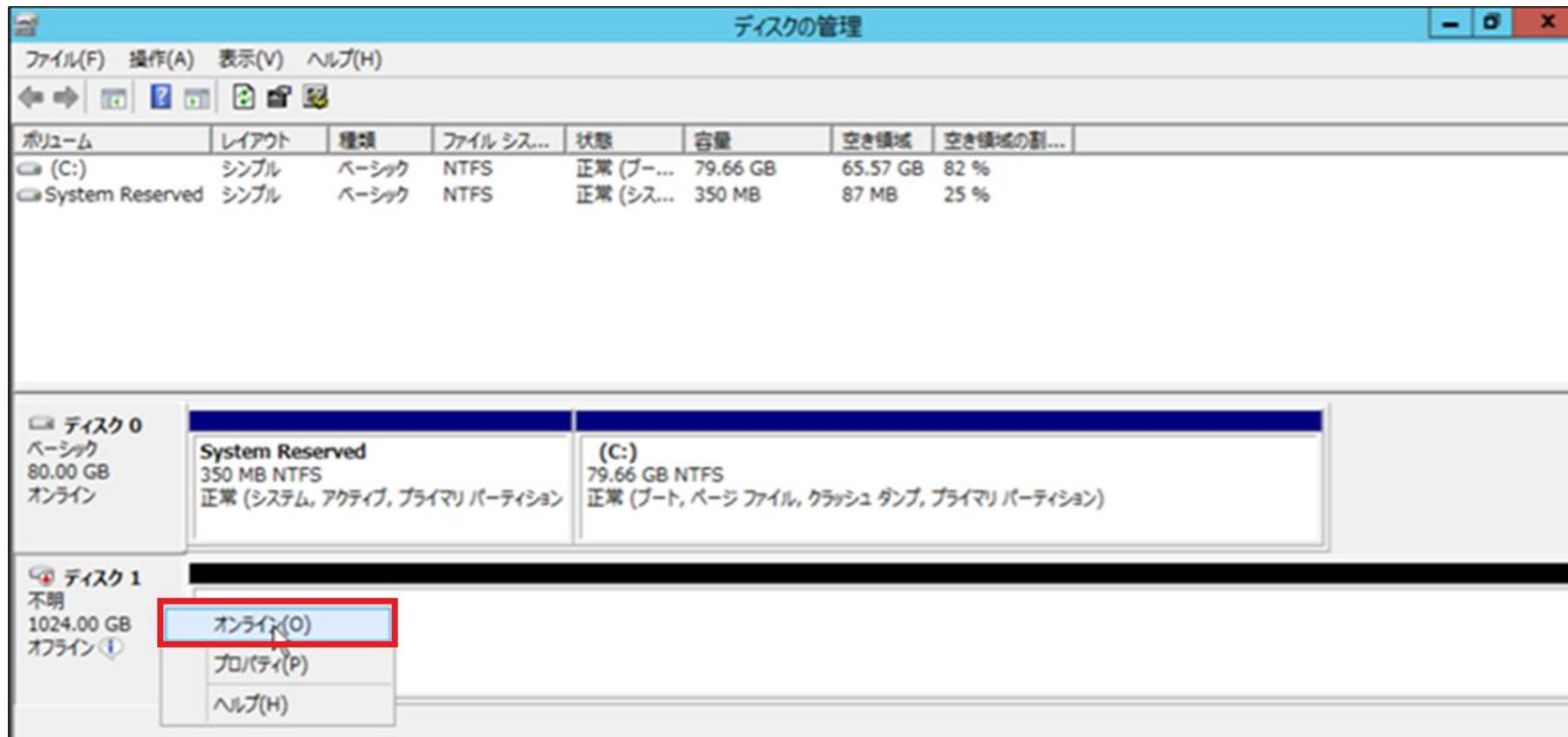
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

移行元サーバーにログインして、「検索」ボックスから「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を検索し、結果の一覧で、「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を開きます。



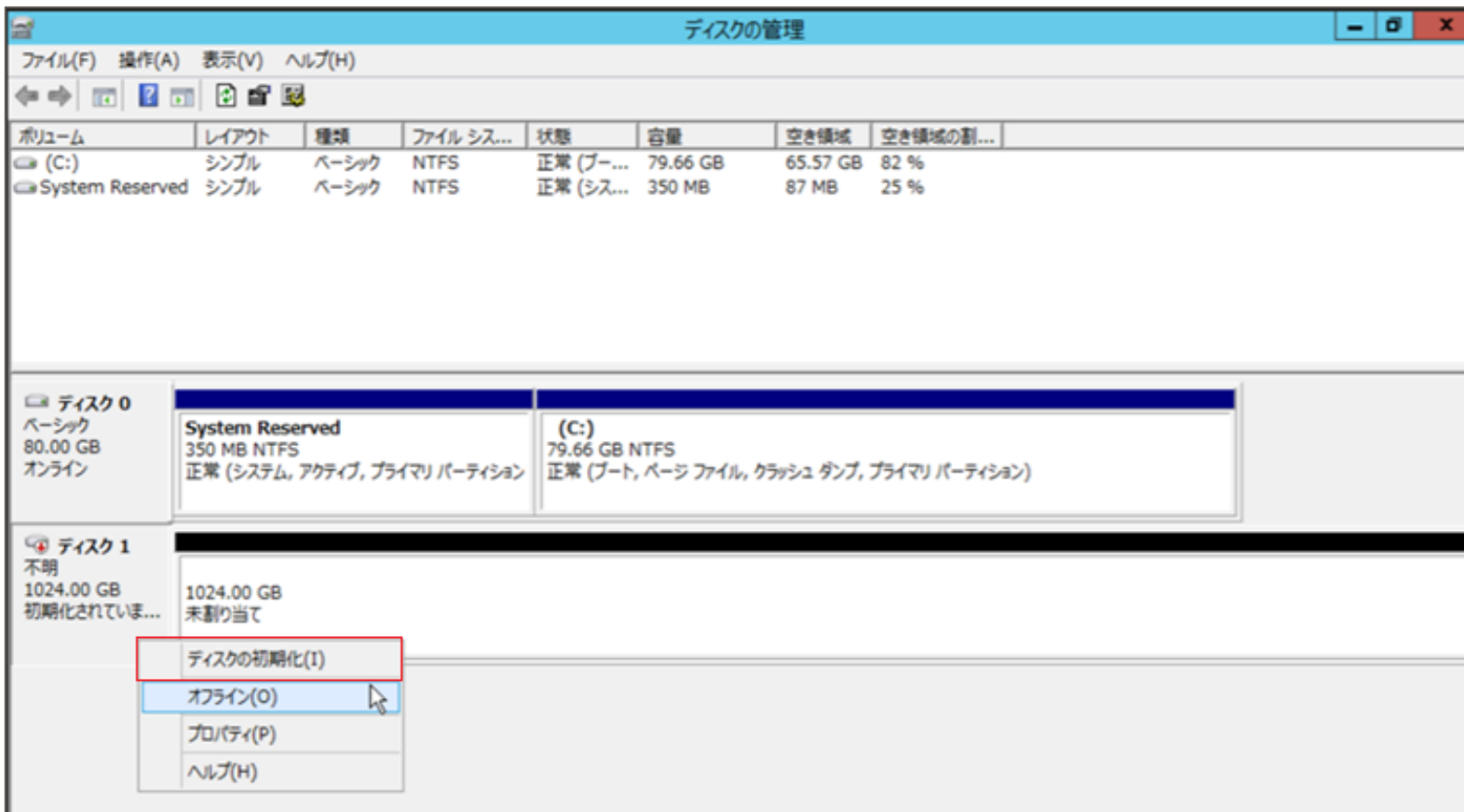
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「ディスクの管理」が開くので、初期化するディスク上で右クリックをし、「オンライン」を押下します。



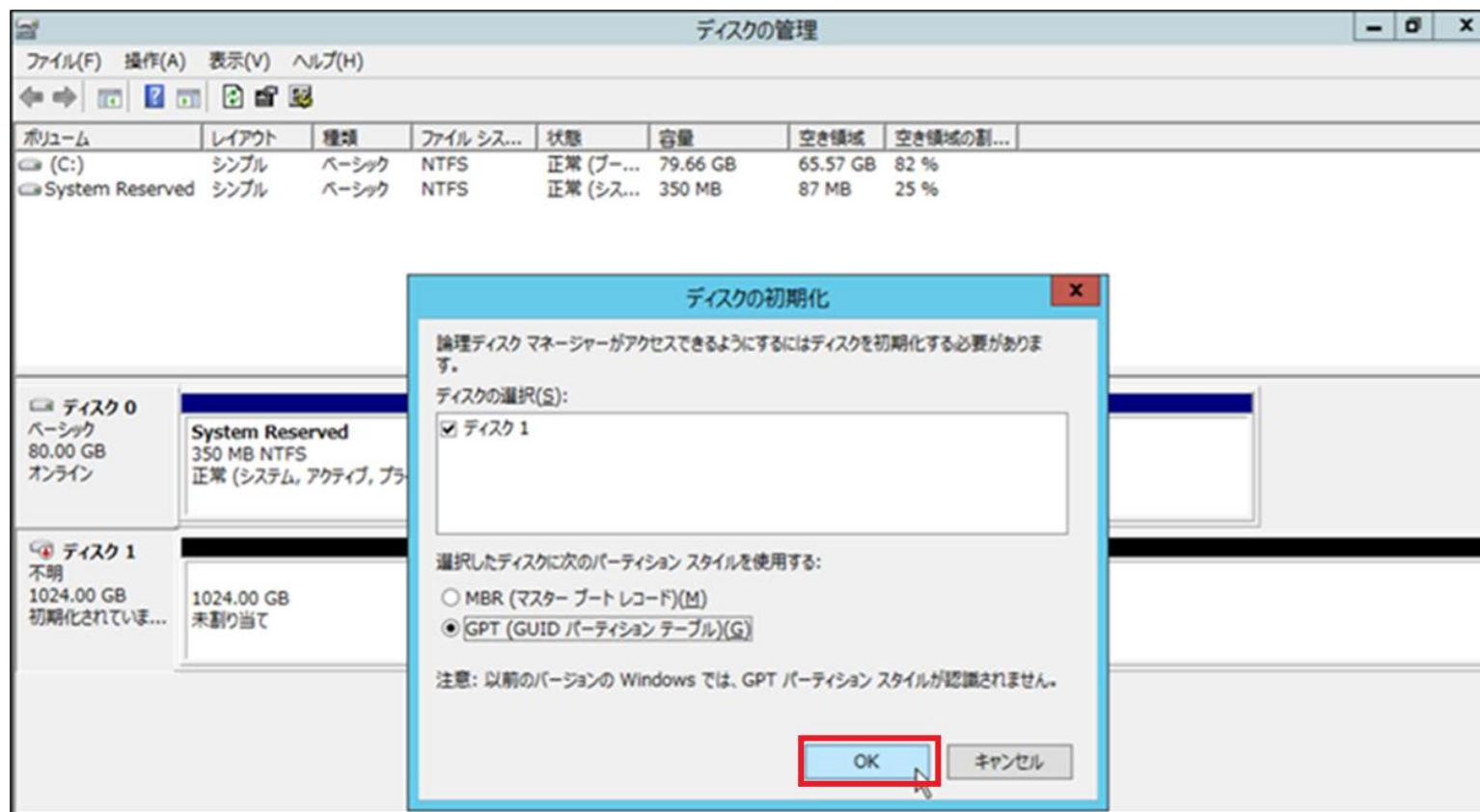
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「オンライン」押下後、再度、初期化するディスク上で右クリックをし、「ディスクの初期化」を押下します。



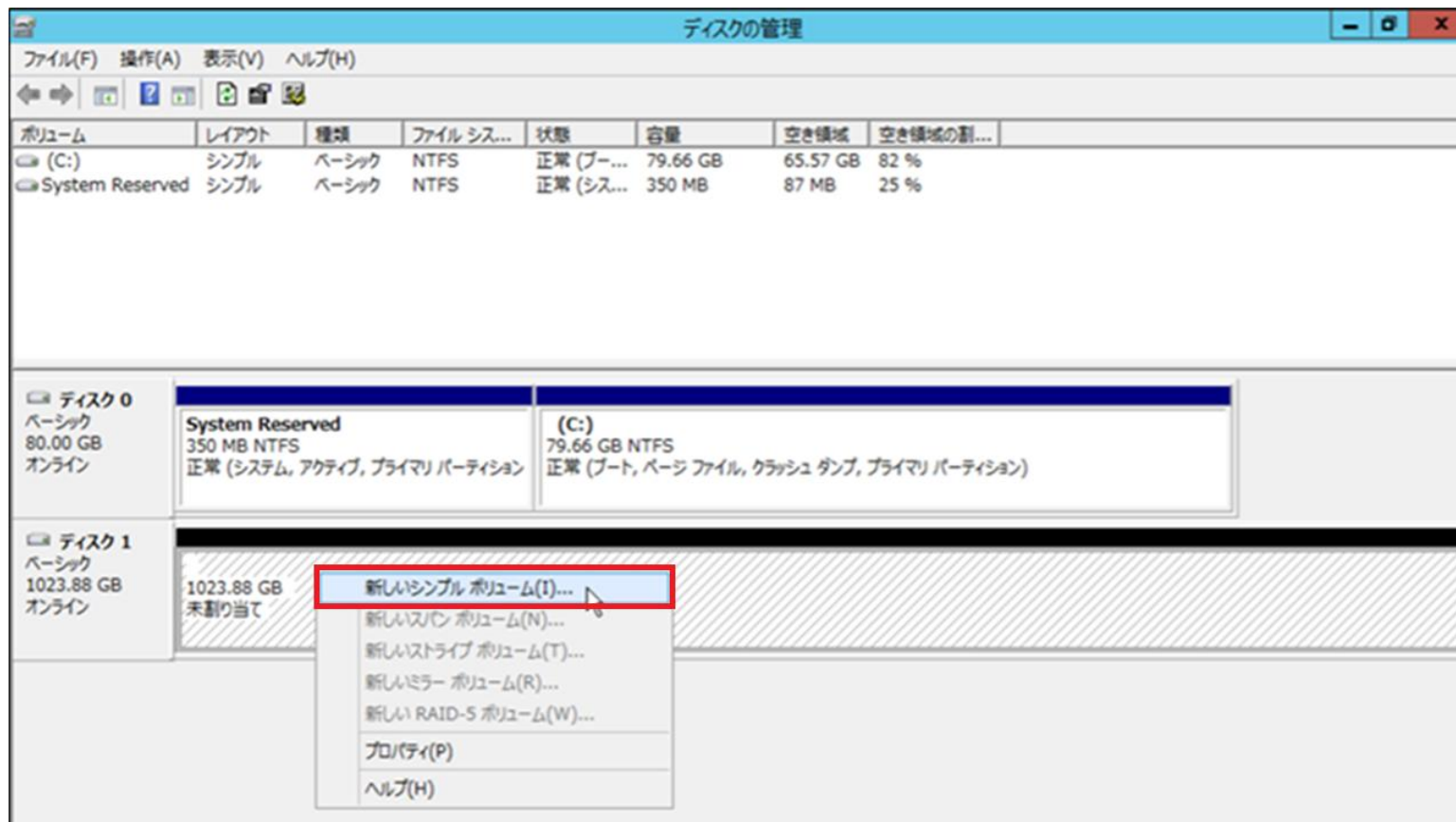
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「ディスクの初期化」画面が表示されるので、「GPT (GUIDパーティション テーブル)」を選択して、「OK」を押下します。



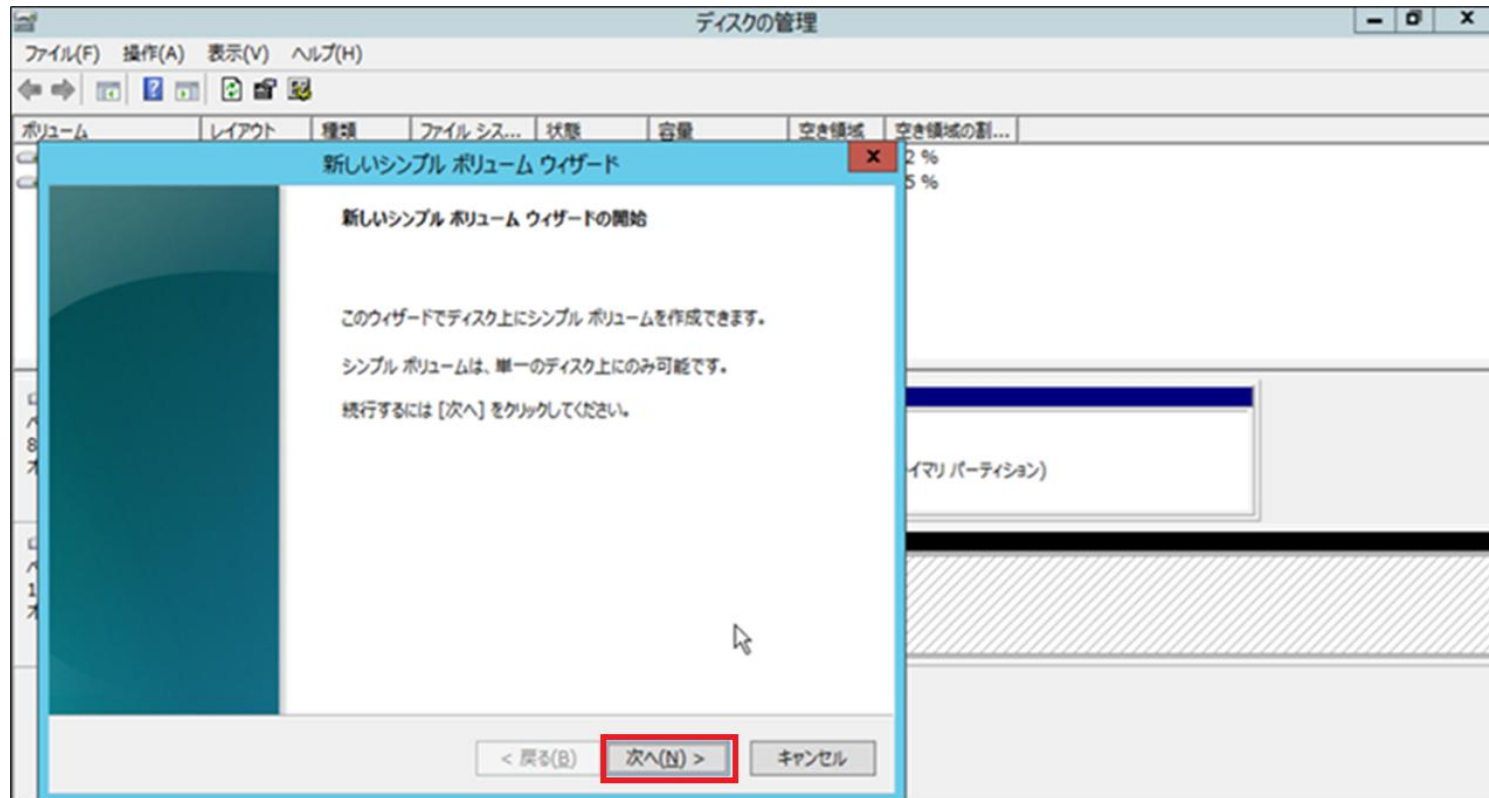
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

初期化するディスク上で右クリックをし、「新しいシンプルボリューム」を押下します。



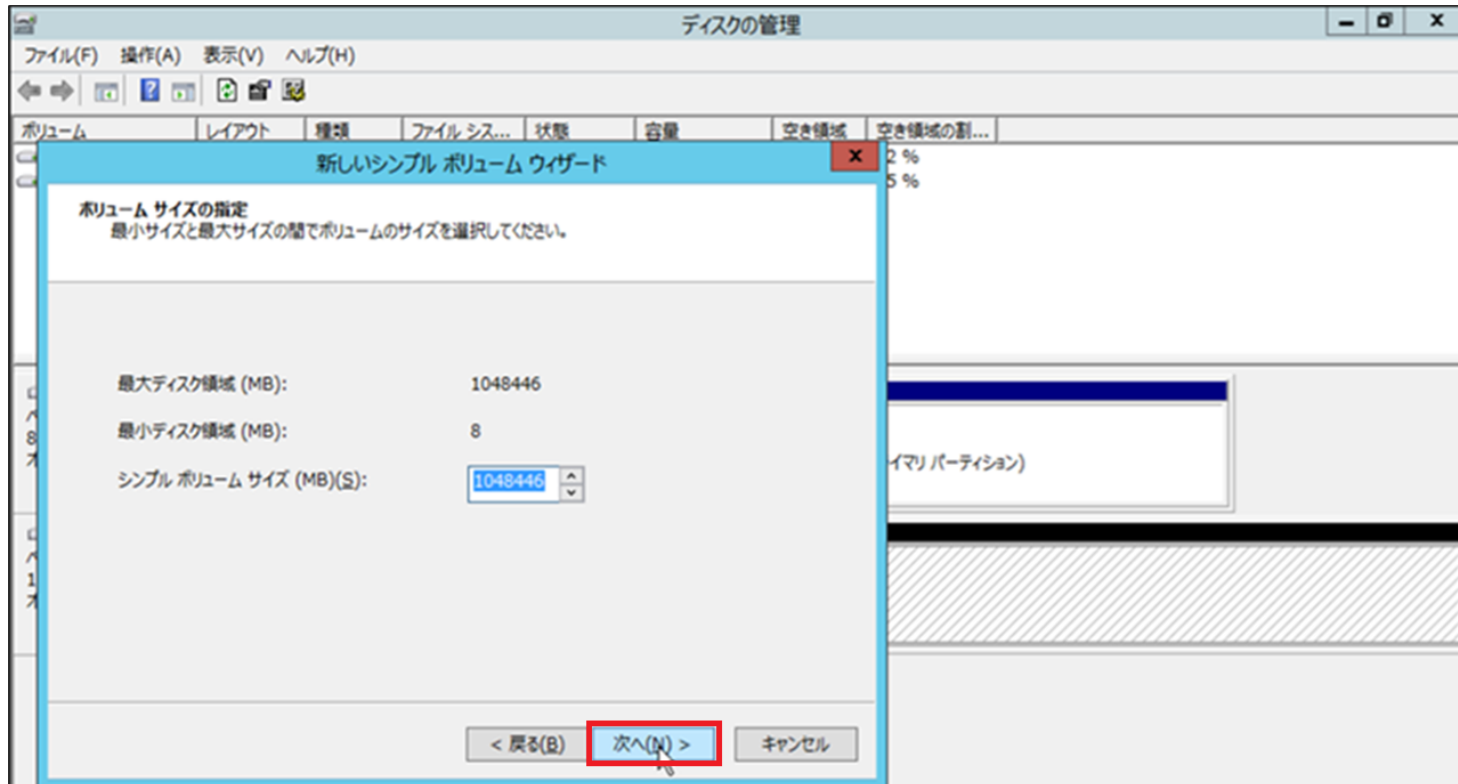
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「新しいシンプル ボリューム ウィザード」画面が表示されるので、「次へ」を押下します。



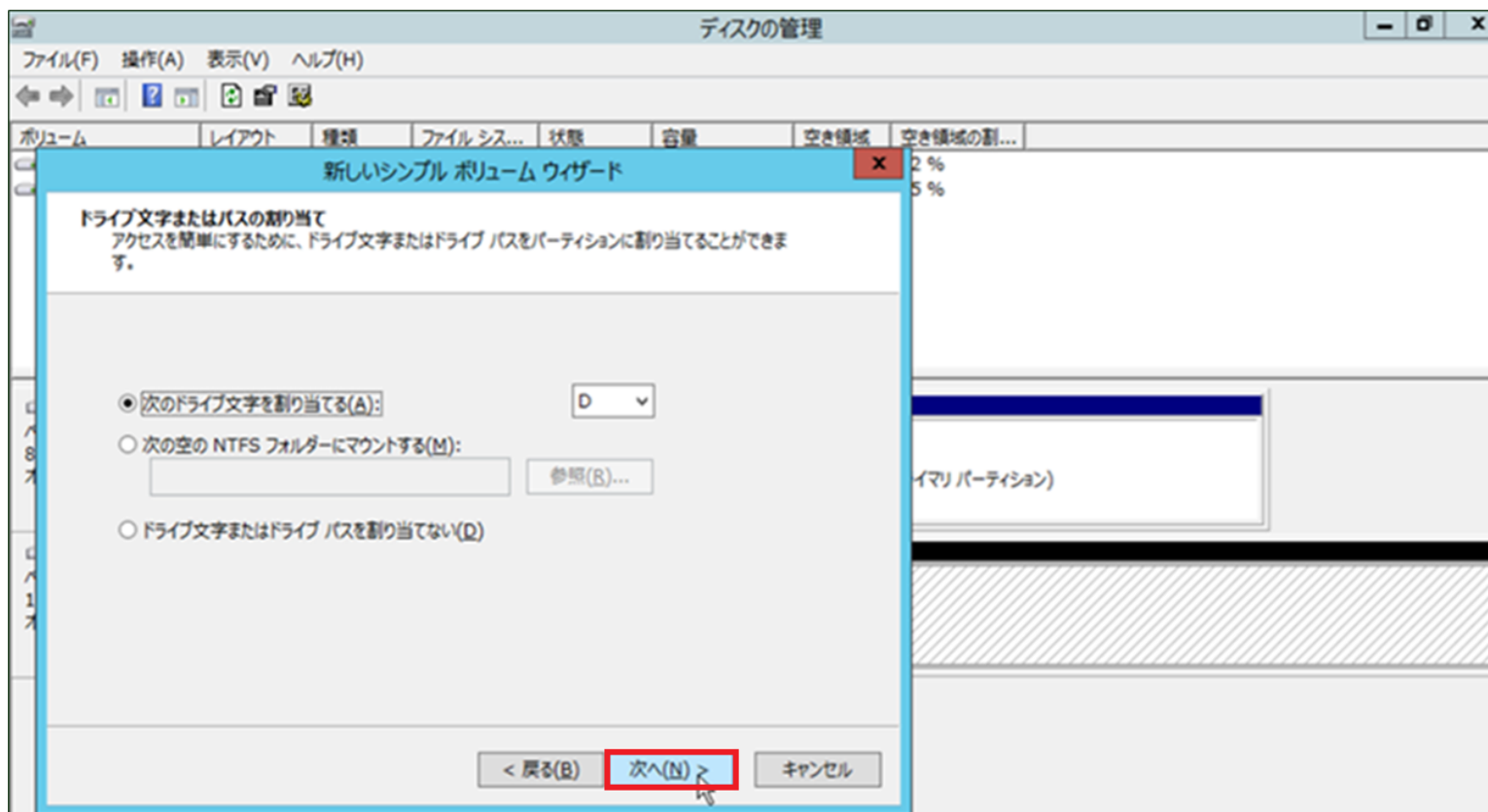
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「シンプルボリューム サイズ」を確認して、「次へ」を押下します。



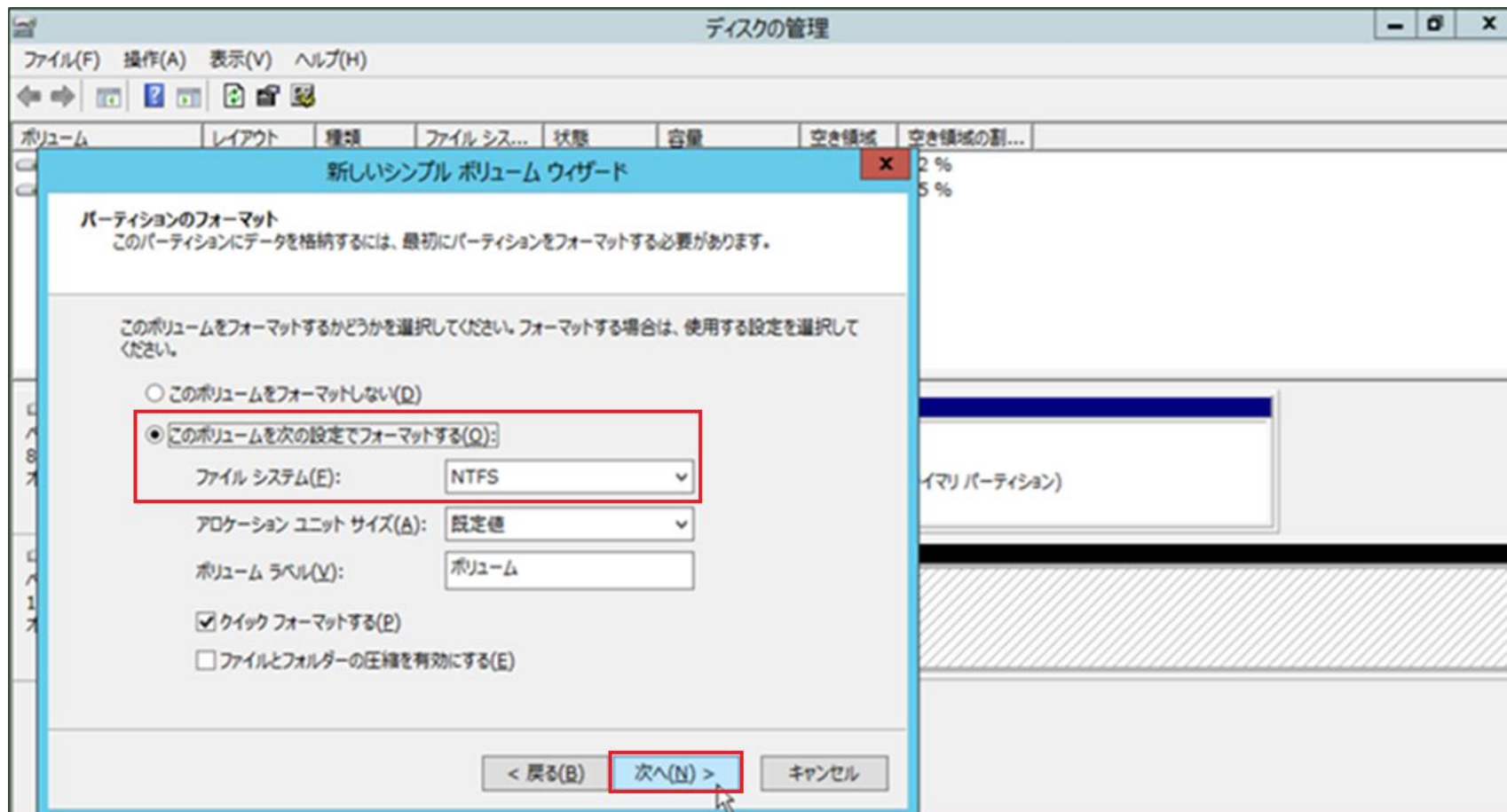
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「次のドライブ文字を割り当てる」でドライブ文字を指定して「次へ」を押下します。



2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「このボリュームを次の設定でフォーマットする」で任意のファイルシステムを選択し、「次へ」を押下します。
※手順では、NTFSを選択しています。



2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

一覧にフォーマット済のボリュームが追加された事を確認します。

The screenshot shows the Windows Disk Management console. The top table lists the volumes on the disks. The 'ボリューム (D:)' row is highlighted with a red border, indicating it is the focus of the operation. Below the table, the details for 'ディスク 1' (Disk 1) are shown, with the 'ボリューム (D:)' section also highlighted by a red border. The details for 'ボリューム (D:)' show it is a 1023.87 GB NTFS volume that is fully formatted (100% free space).

ボリューム	レイアウト	種類	ファイル シス...	状態	容量	空き領域	空き領域の割...
(C:)	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (ブー...	79.66 GB	65.57 GB	82 %
System Reserved	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (シス...	350 MB	87 MB	25 %
ボリューム (D:)	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (プラ...	1023.87 GB	1023.6...	100 %

ディスク	パーティション	容量	ファイル システム	状態
ディスク 0 ベーシック 80.00 GB オンライン	System Reserved	350 MB	NTFS	正常 (システム, アクティブ, プライマリ パーティション)
	(C:)	79.66 GB	NTFS	正常 (ブート, ページ ファイル, クラッシュ ダンプ, プライマリ パーティション)
ディスク 1 ベーシック 1023.88 GB オンライン	ボリューム (D:)	1023.87 GB	NTFS	正常 (プライマリ パーティション)

3. Arcserveの導入

移行元サーバーで以下を実施します。

以下リンクを参照して、Arcserveをダウンロードします。

[4.3.1. UDPコンソール・復旧ポイントサーバー・Windowsエージェント - ユースケース](#)

以下リンクを参照して、Arcserveをインストールします。

[4.4.3. Windowsエージェント - ユースケース](#)

3. Arcserveの導入

移行先サーバーに、Arcserveをダウンロード・インストールを実施します。

移行先サーバーにログインし、以下リンクを参照して、Arcserveをダウンロードします。

[4.3.1. UDPコンソール・復旧ポイントサーバー・Windowsエージェント - ユースケース](#)

以下リンクを参照して、Arcserveをインストールします。

[4.4.3. Windowsエージェント - ユースケース](#)

4. バックアップ作業

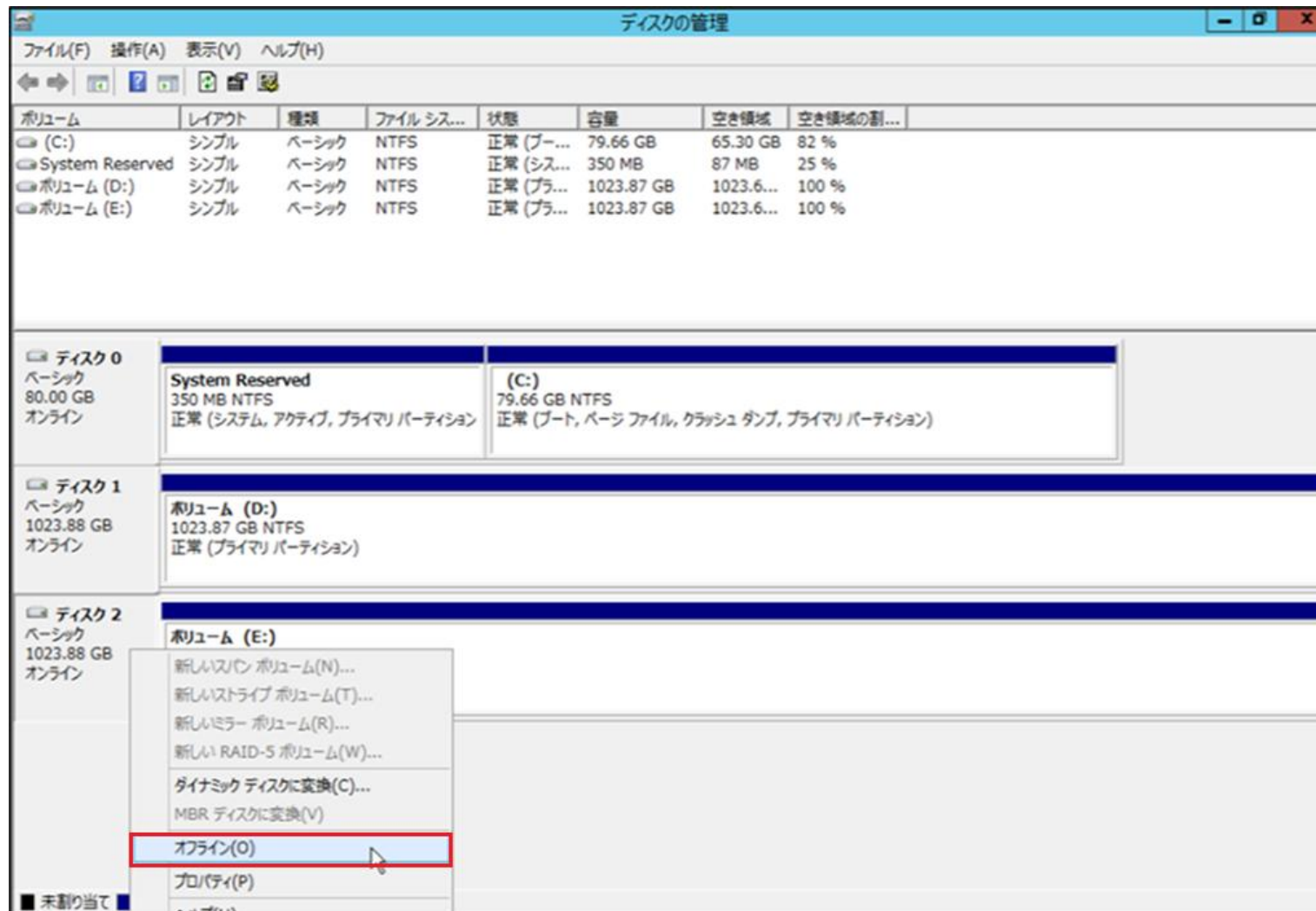
移行元サーバに移動し、バックアップデータ作成を行います。

以下ユースケースを参考に手順実施します。

4.6.1. Windows Server (単体型) - ユースケース

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

移行元サーバのコンソール画面を開き、「ディスクの管理」の画面で、バックアップデータ保存用ボリュームのディスクで右クリックで、「オフライン」を押下します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

SDPFポータル画面を開き、「仮想サーバ」→「サーバーインスタンス」→「ボリューム」画面で、バックアップデータ保存用ボリュームを選択し、「接続の管理」を選択します。

※「接続の管理」からボリュームの切断（デタッチ）を行います。下記URL事象が発生する可能性があるため、デタッチ実施の際は、仮想サーバーインスタンスを停止した状態で実施してください。

<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

The screenshot shows the 'ボリューム' (Volumes) page in the SDPF portal. The left sidebar contains navigation options like '仮想サーバ' (Virtual Server), 'サーバーインスタンス' (Server Instance), 'インスタンス' (Instance), 'ボリューム' (Volume), 'イメージ管理' (Image Management), '物理サーバ' (Physical Server), 'ハイパーバイザー' (Hypervisor), 'ストレージ' (Storage), 'クラウド/サーバー ローカルネットワーク' (Cloud/Server Local Network), '相互接続/関連サービス' (Interconnection/Related Services), and 'クラウド/サーバー ネットワークセキュリティ' (Cloud/Server Network Security). The main content area displays a table of volumes. The table has columns: 名前 (Name), 説明 (Description), ゾーングループ (Zone Group), サイズ (Size), 種別 (Type), 接続先 (Connection), 起動可能 (Startable), ステータス (Status), and アクション (Action). One volume is highlighted in yellow, and its '接続先' column shows 'の /dev/sdb に接続中' (connected to /dev/sdb). A dropdown menu is open for the '接続の管理' (Connection Management) action of this volume, showing options like '接続の管理' (Connection Management), 'イメージをアップロード' (Upload Image), 'ボリューム種別の変更' (Change Volume Type), and 'ボリュームの切断' (Detach Volume).

名前	説明	ゾーングループ	サイズ	種別	接続先	起動可能	ステータス	アクション
	-	zone1-group	100GB	-		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	80GB	Type-A		はい	reserved	ボリュームの編集
	-	zone1-group	80GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	接続の管理
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	イメージをアップロード
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	ボリューム種別の変更
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの切断

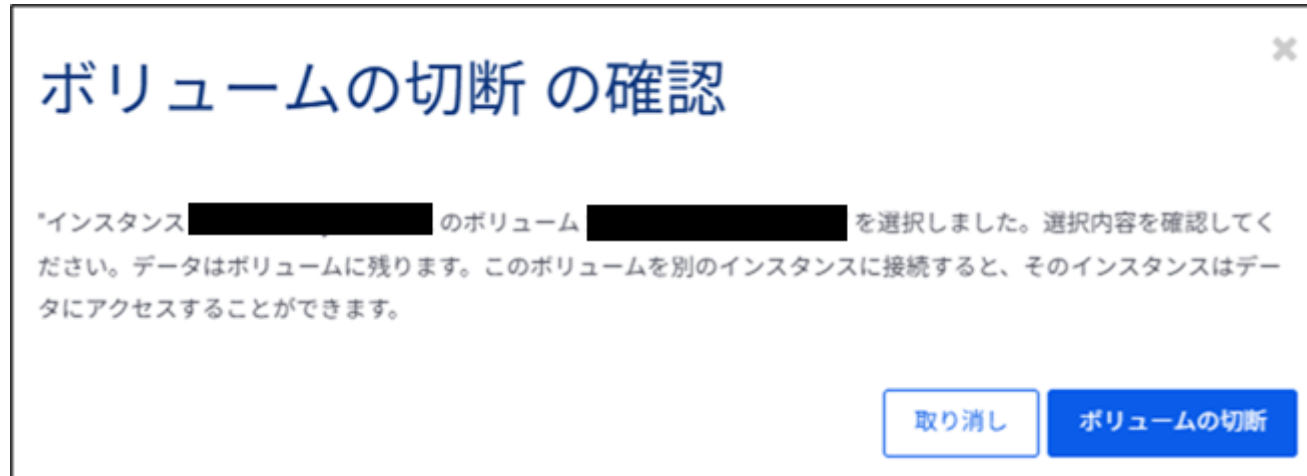
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

「ボリュームの接続の管理」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



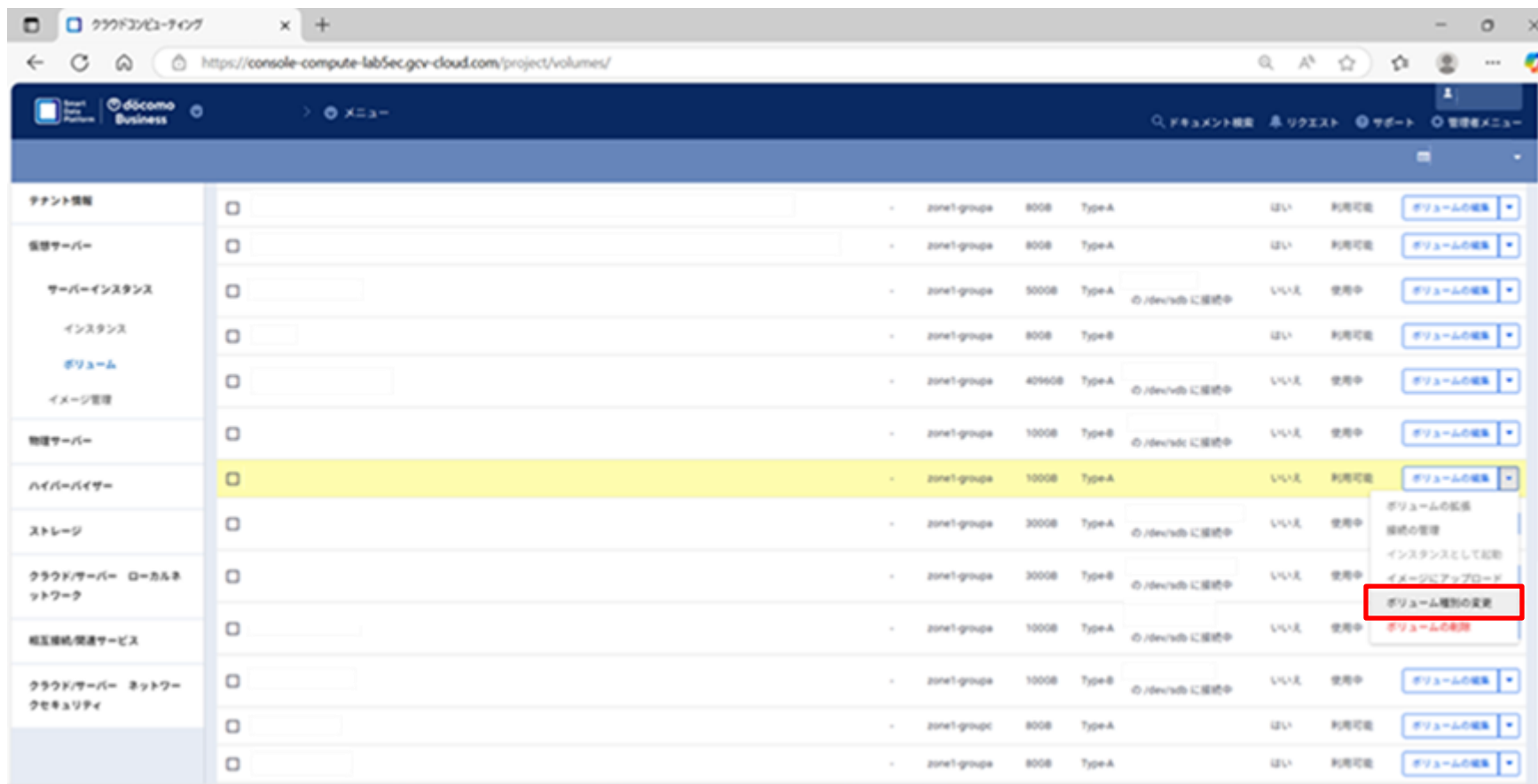
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

「ボリュームの切断の確認」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

先ほど作成したバックアップデータ保存用ボリュームを選択し、アクションリストから「ボリューム種別の変更」を選択します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

ボリューム種別がType-Bになっていることを確認し、「ボリューム種別の変更」を選択します。

ボリューム種別の変更 ×

ボリューム種別

Type-B ▼

ドライランモードを有効にする

取り消し

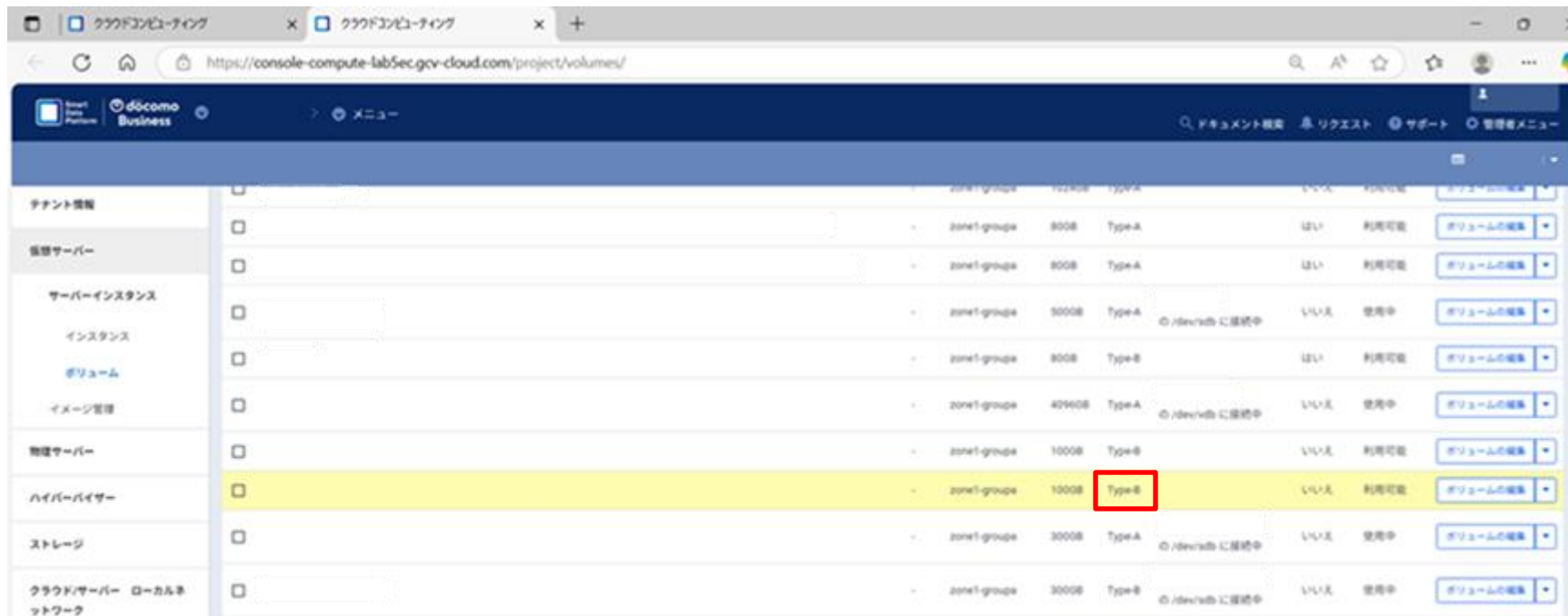
ボリューム種別の変更

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

つながろう。驚きを。幸せを。

 NTT docomo Business

バックアップデータ保存用ボリュームのタイプが“Type-B”になっていることを確認します。



テナント情報	ゾーン	容量	タイプ	接続状況	ステータス	操作
zone1-group	1024GB	Type-A	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	80GB	Type-A	はい	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	80GB	Type-A	はい	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	300GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	
zone1-group	80GB	Type-B	はい	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	4096GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	
zone1-group	100GB	Type-B	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	100GB	Type-B	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	300GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	
zone1-group	300GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

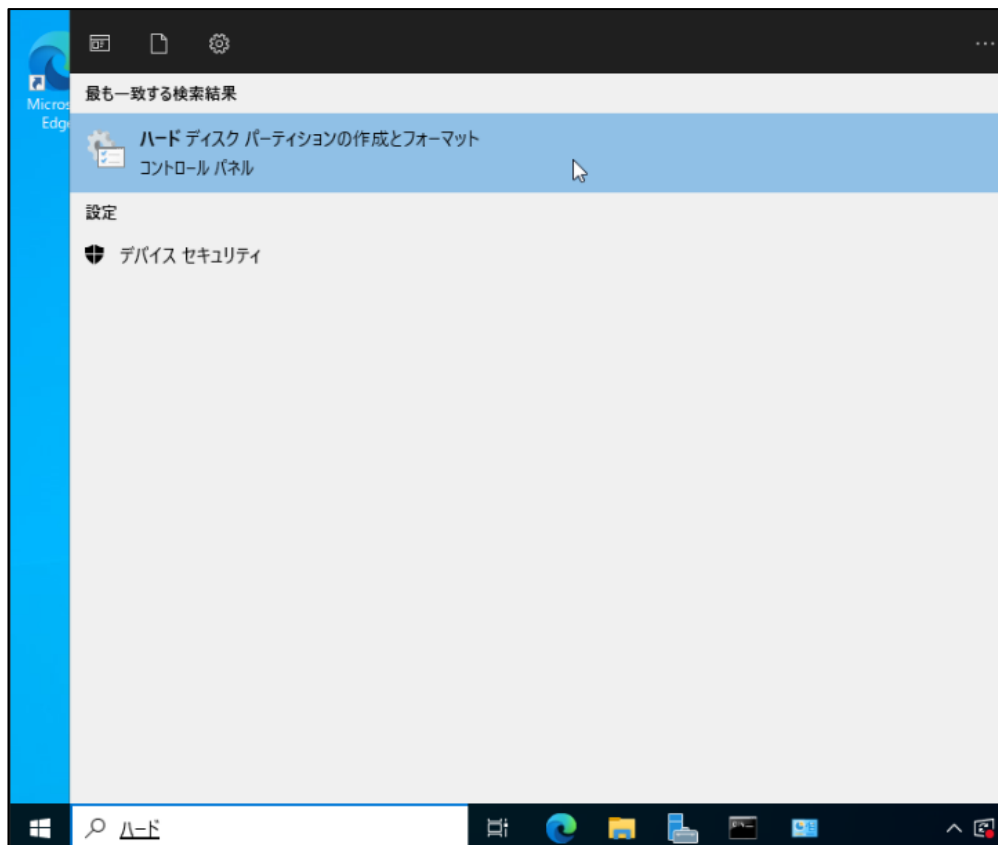
次に、バックアップデータ保存用ボリュームを移行先サーバーに接続します。
以下リンクの「4.1.2インスタンスへのデータボリュームのアタッチ」を参考に実施します。

[4.1.データボリュームの新規作成方法 - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

※ボリュームのアタッチ/デタッチは仮想サーバーインスタンスを“停止”した状態で行ってください。
<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

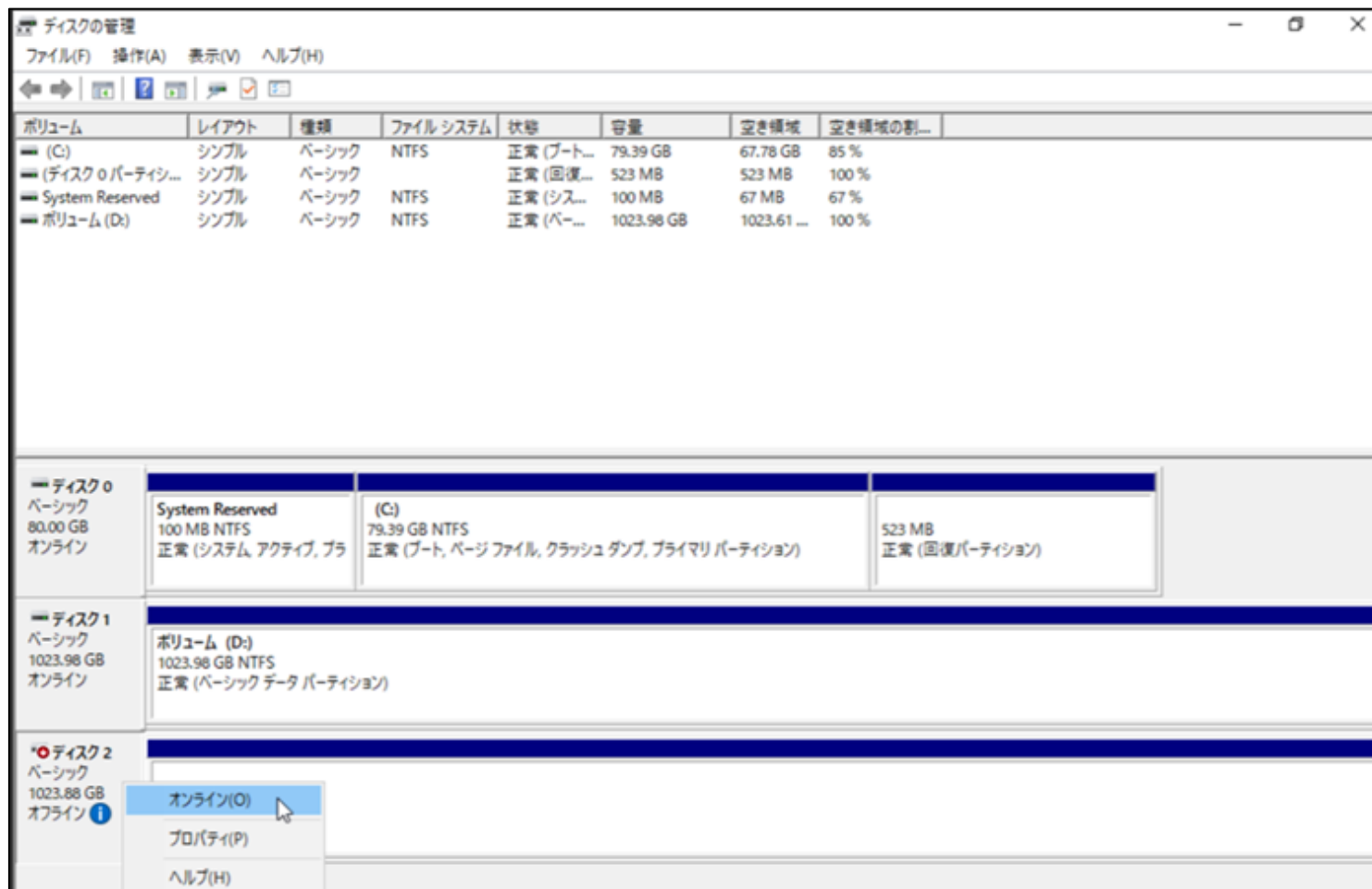
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

移行先サーバーにログインして、「検索ボックス」から「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を検索し、結果の一覧で、「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を開きます。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

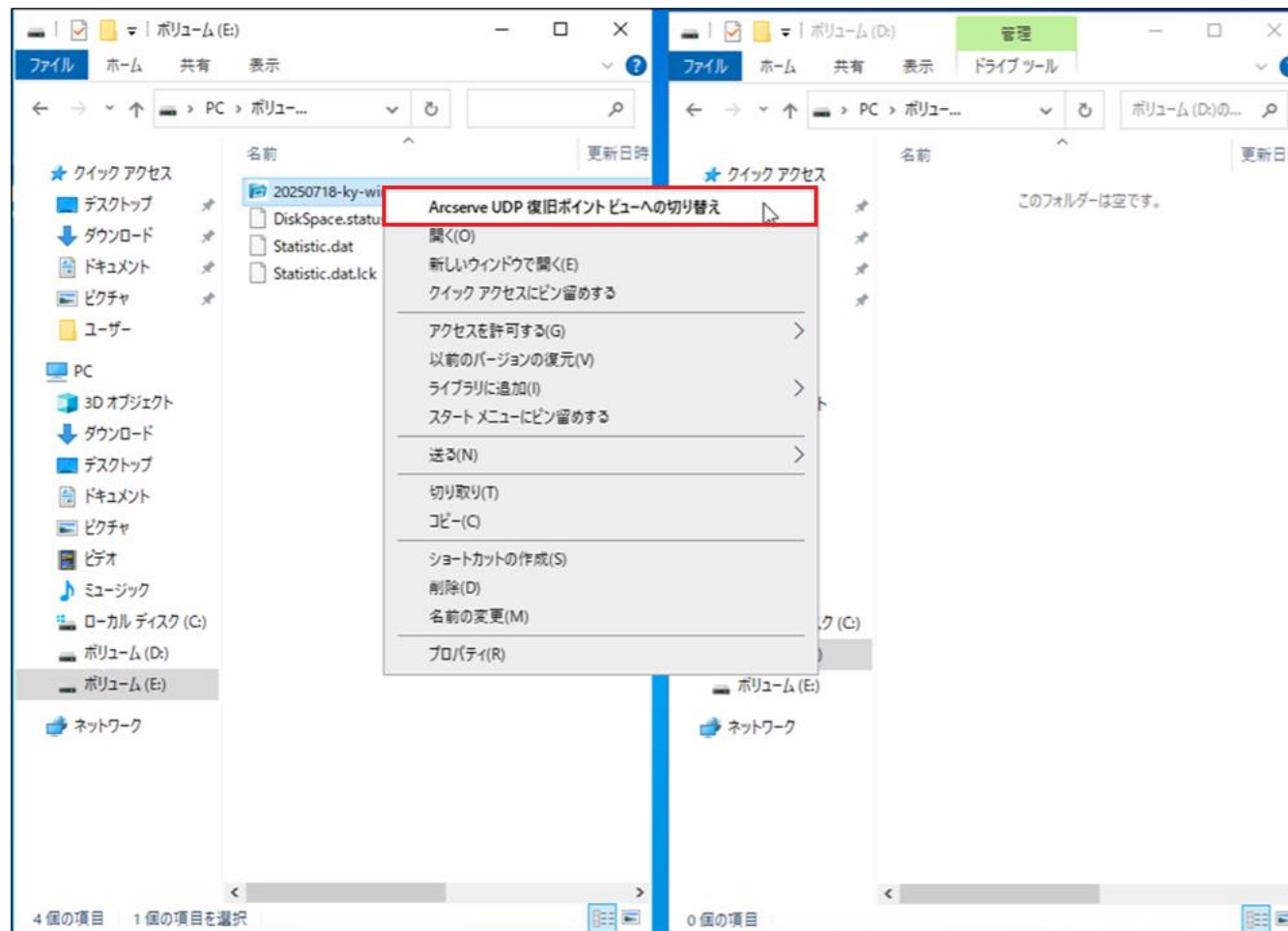
バックアップデータ保存用データボリューム上で右クリックし、「オンライン」を押下します。



6. リストア作業

移行先サーバへバックアップデータボリュームから必要なデータをリストアします。

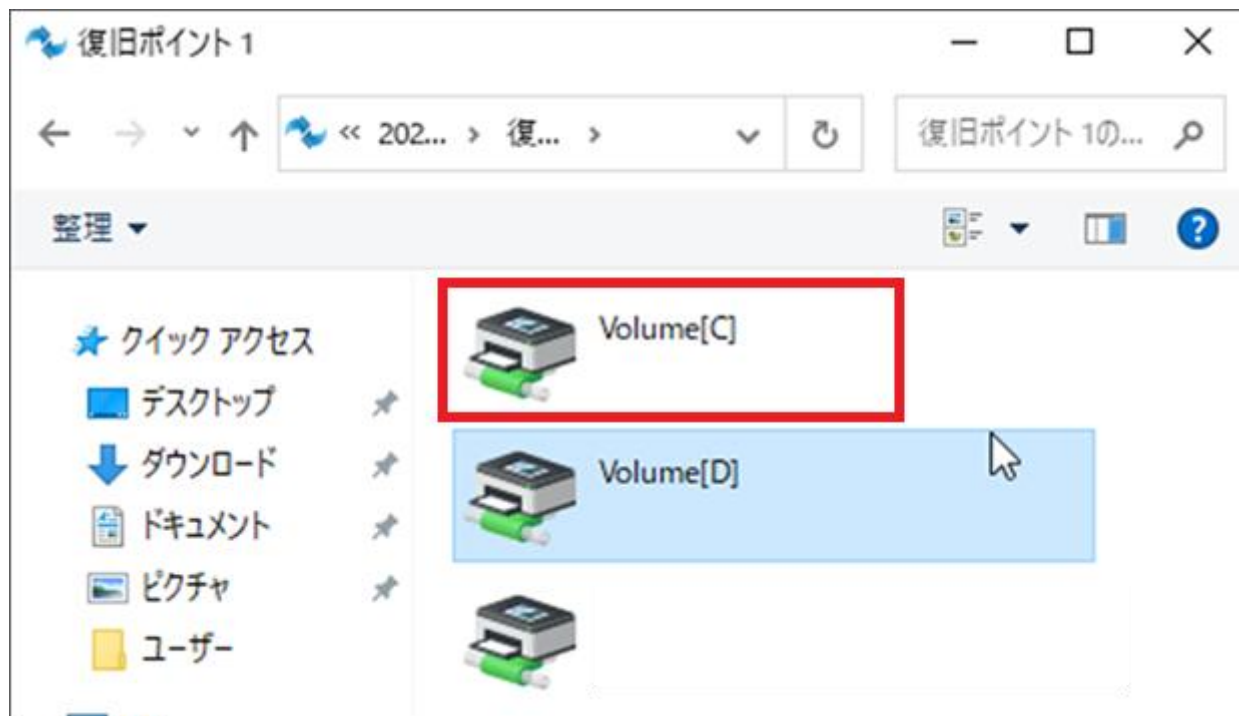
バックアップファイルを選択し、右クリック>「Arcserve UDP復旧ポイントビューへの切り替え」を押下します。



6. リストア作業

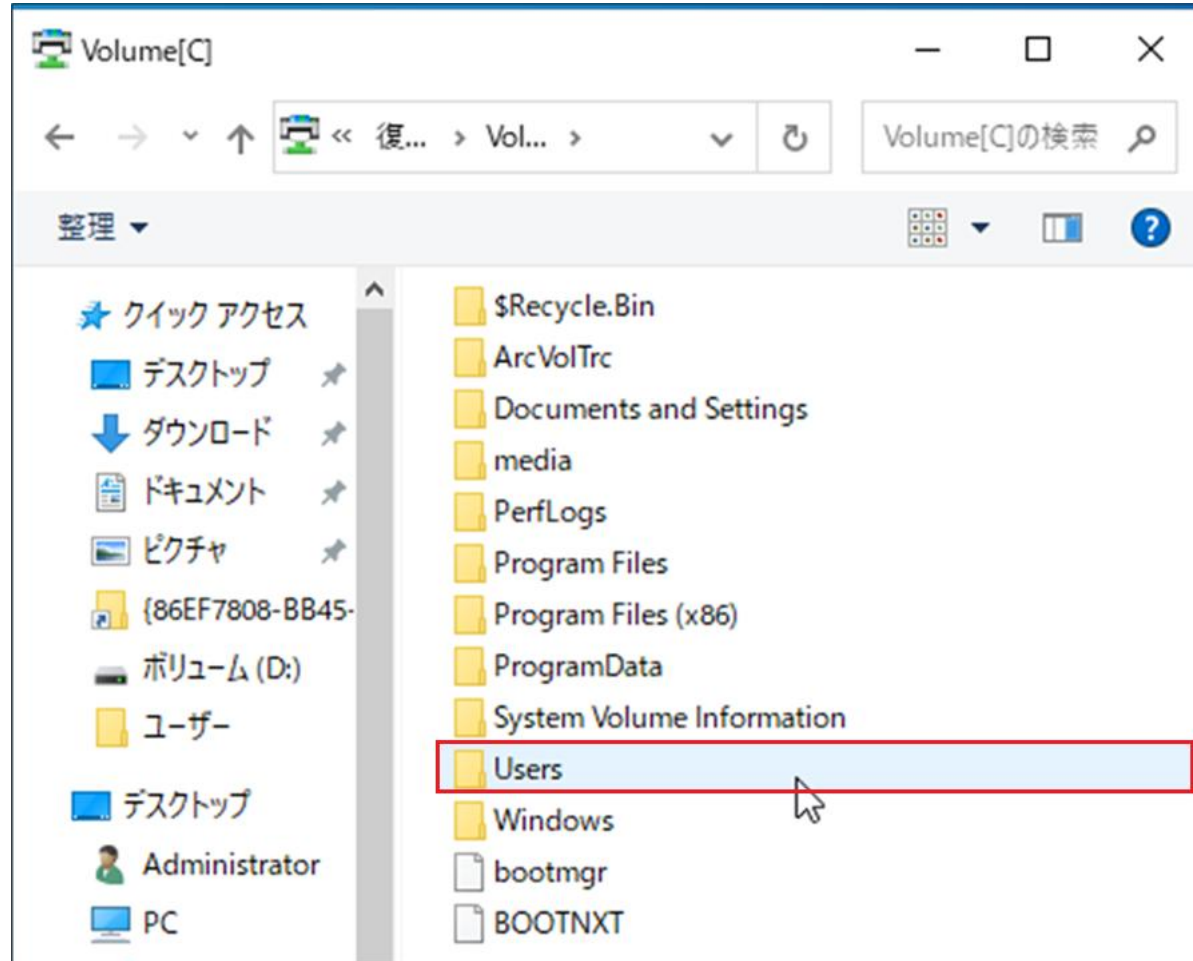
移行対象のデータが含まれるドライブを選択します。

※手順書では「Volume C」を選択し、ユーザデータ（デスクトップ上のファイル等）の移行手順を記載します。



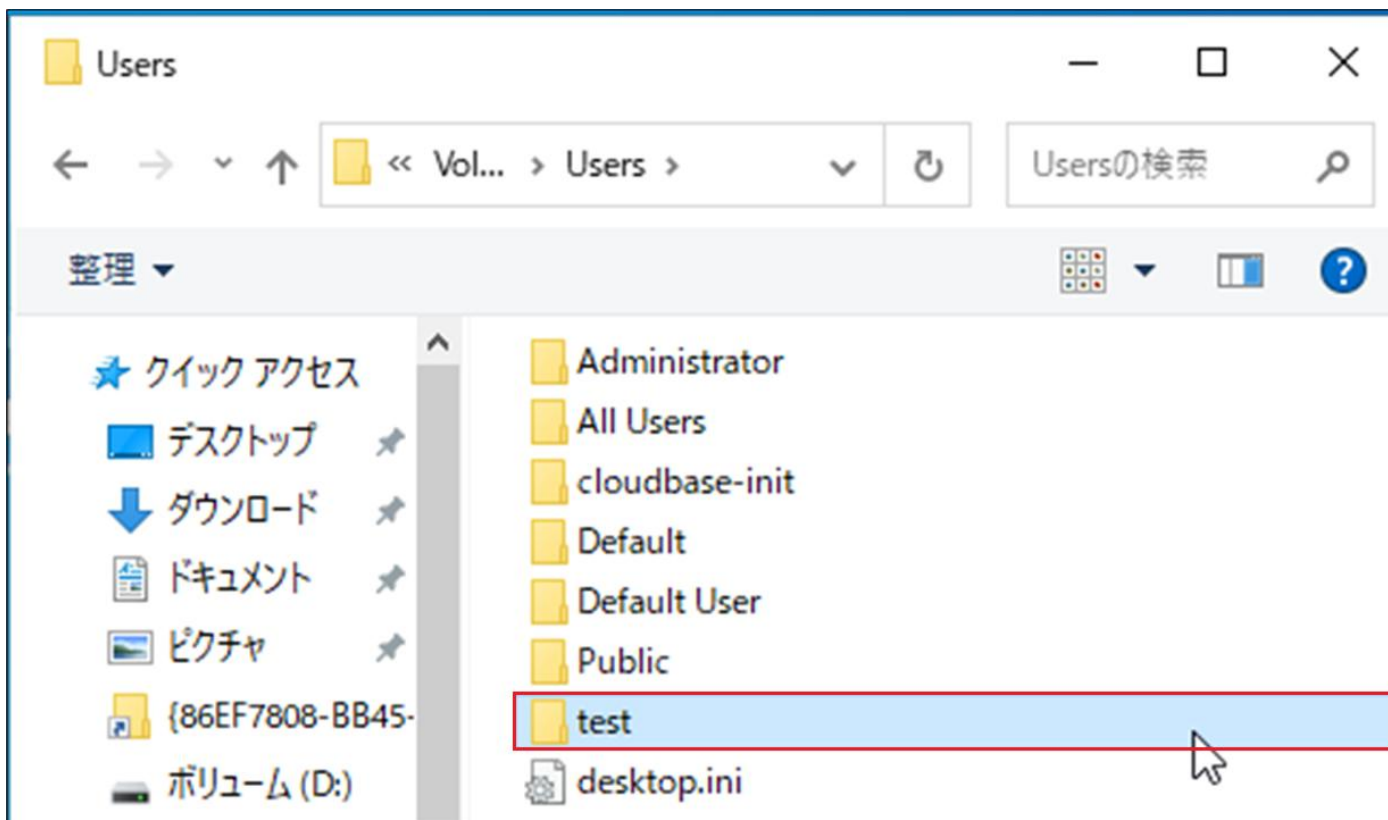
6. リストア作業

「Users」を選択します。



6. リストア作業

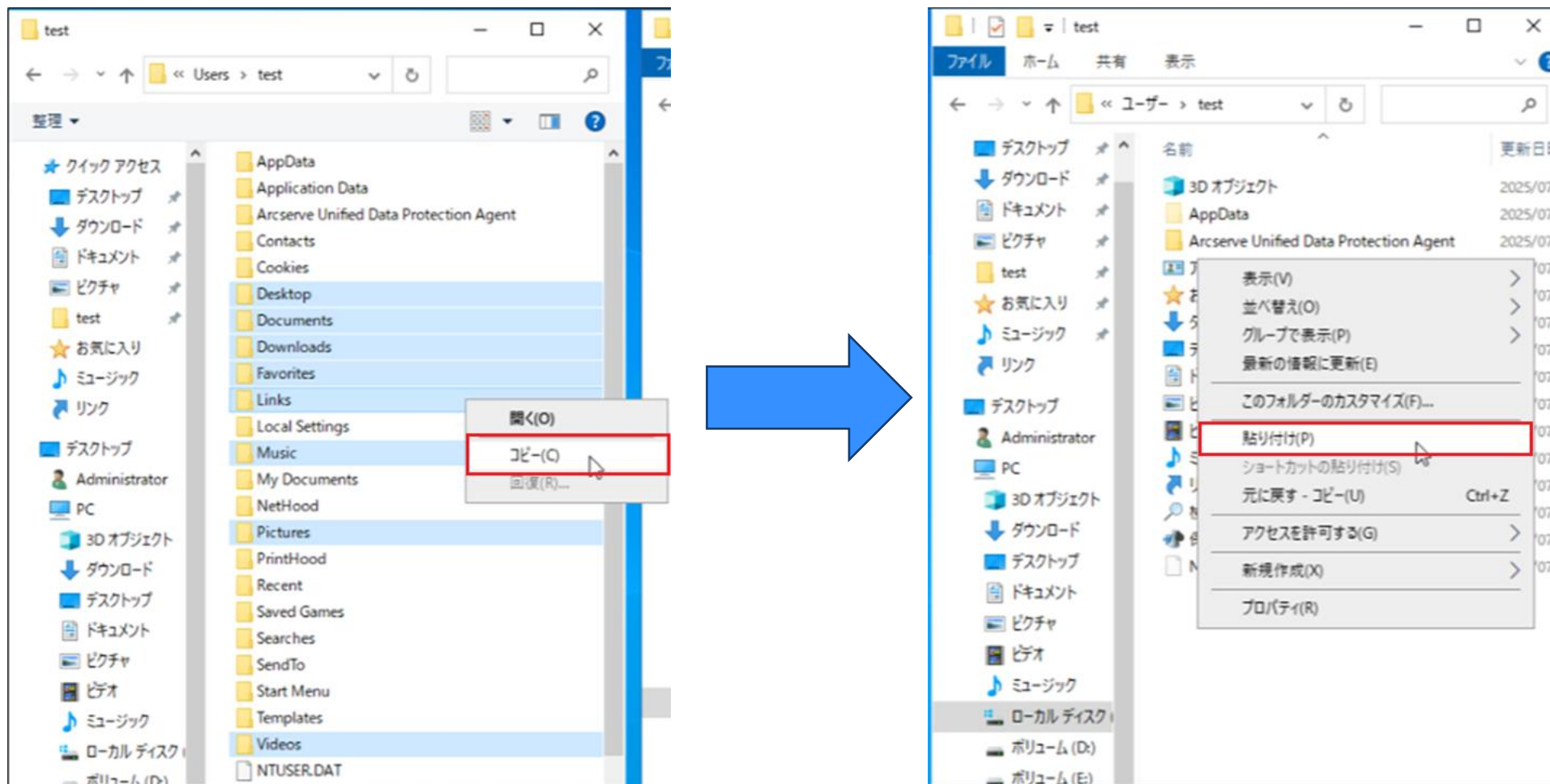
移行対象データが含まれるユーザのフォルダを選択します。



6. リストア作業

移行対象データのフォルダをコピーし、移行先のフォルダへ貼り付けます。

※手順書では、Cドライブ上の同一名のユーザフォルダへデスクトップファイル等をコピーしています。

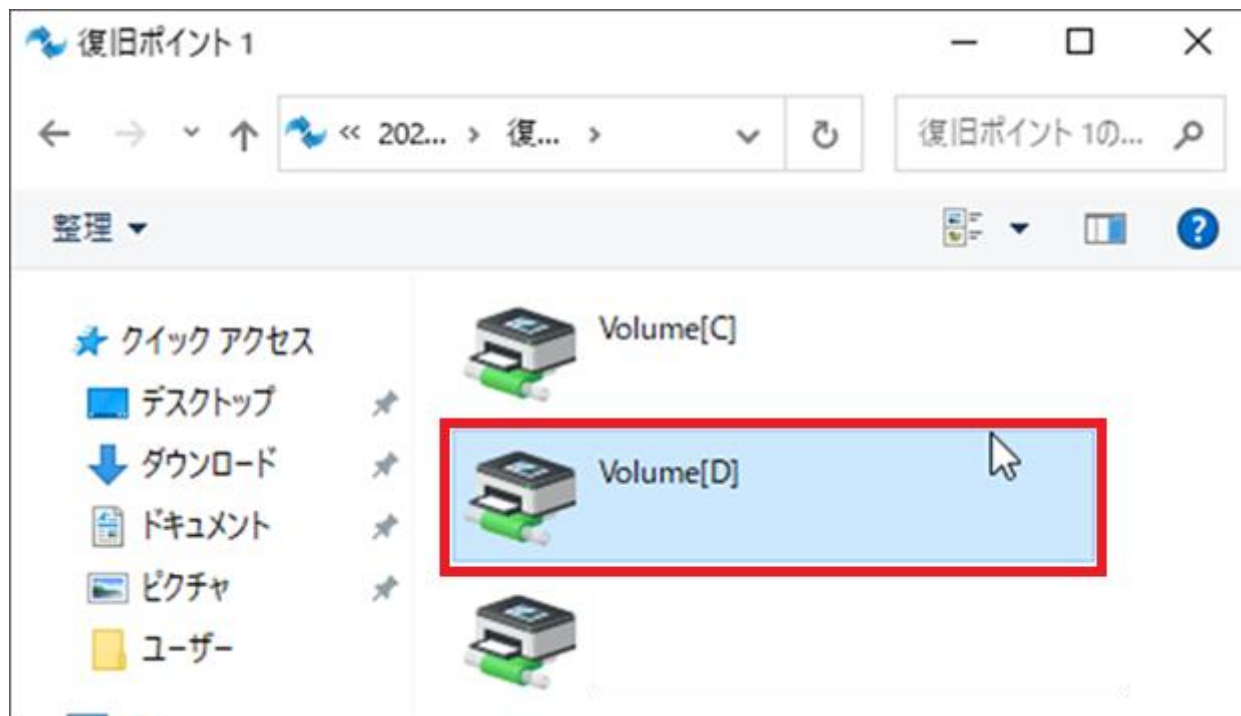


6. リストア作業

次に、Dドライブ等のデータが含まれるドライブを選択します。

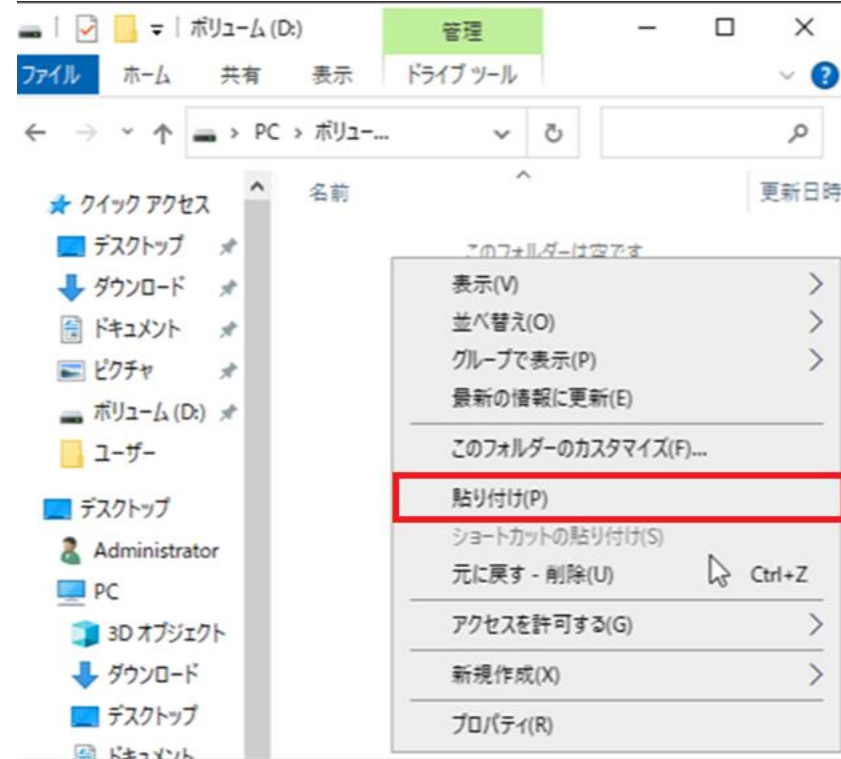
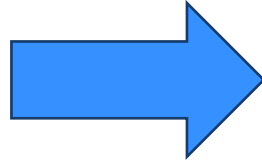
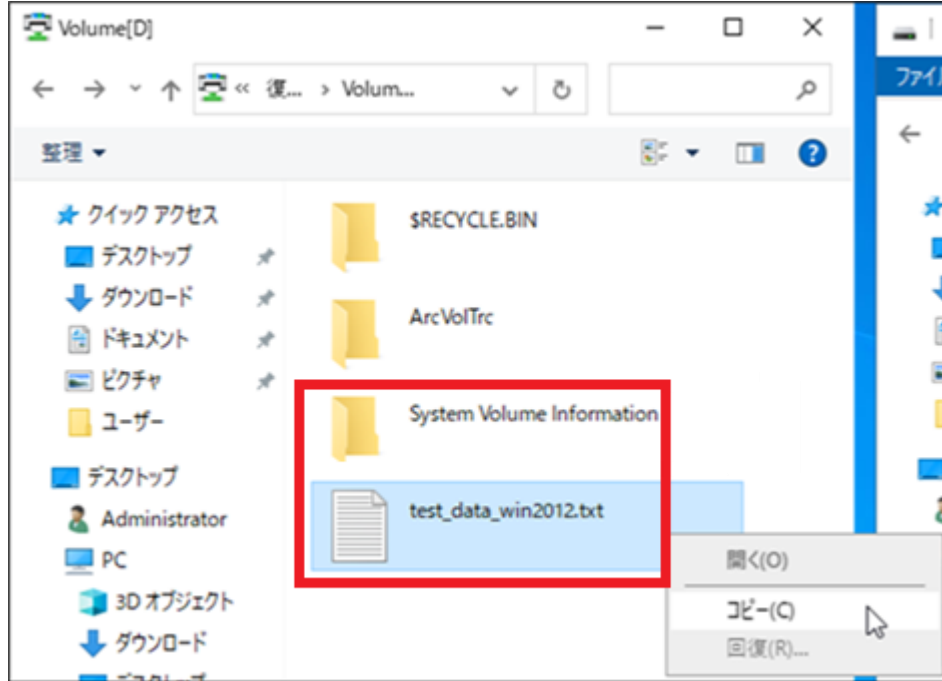
※移行対象に、Dドライブ等のデータボリュームが含まれない場合、本手順は実施不要です。

手順書では「Volume D」を選択し、データ移行を行います。



6. リストア作業

移行対象のデータをコピーし、移行先のフォルダに貼り付けます。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

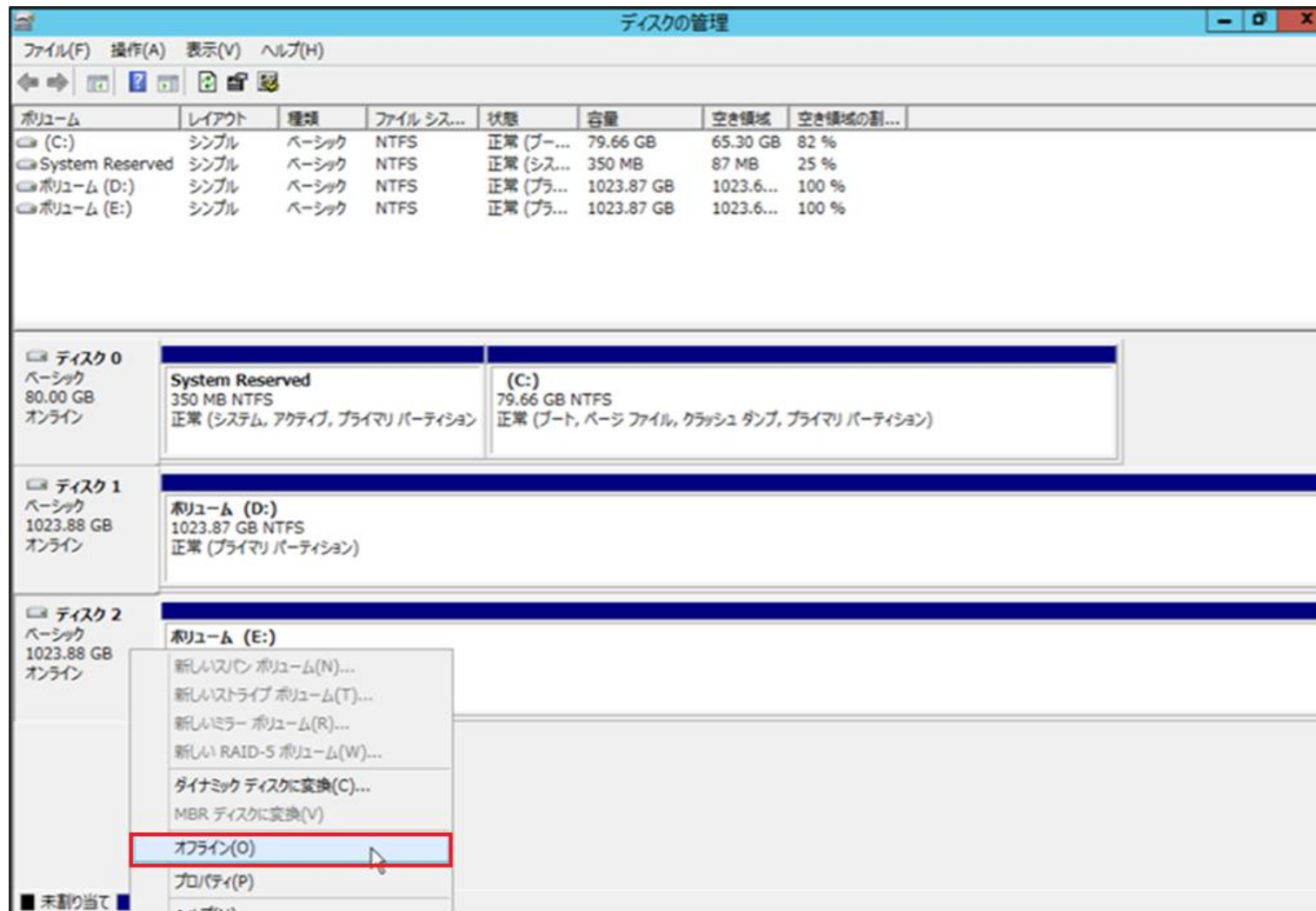
新環境へのデータ移行が完了し、アプリケーションが問題なく稼働することをご確認いただけましたら、バックアップデータ保存用ボリュームと移行元サーバを削除していきます。

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

【ボリュームの削除】

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

移行先サーバのコンソール画面を開き、「ディスクの管理」の画面で、バックアップデータ保存用ボリュームのディスクで右クリックで、「オフライン」を押下します。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

SDPFポータル画面を開き、「仮想サーバ」→「サーバーインスタンス」→「ボリューム」画面で、バックアップデータ保存用ボリュームを選択し、「接続の管理」を選択します。

The screenshot shows the 'ボリューム' (Volumes) page in the SDPF portal. The left sidebar contains navigation options: テナント情報, 仮想サーバ, サーバースタンス, インスタンス, ボリューム, イメージ管理, 物理サーバ, ハイパーバイザー, ストレージ, クラウド/サーバ ローカルネットワーク, 相互接続/関連サービス, クラウド/サーバ ネットワークセキュリティ. The main content area displays a table of volumes with columns: 名前, 説明, ゾーン/グループ, サイズ, 種別, 接続先, 起動可能, ステータス, アクション. A dropdown menu is open for the selected volume, with '接続の管理' highlighted.

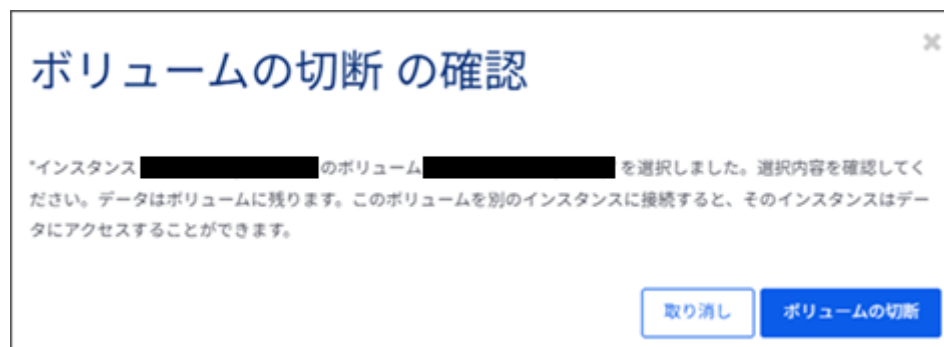
名前	説明	ゾーン/グループ	サイズ	種別	接続先	起動可能	ステータス	アクション
	-	zone1-group	1000B	-		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	800B	Type-A		はい	reserved	ボリュームの編集
	-	zone1-group	800B	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	10240B	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	接続の管理
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	イメージをアップロード
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	ボリューム種別の変更
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの削除

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

「ボリュームの接続の管理」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



「ボリュームの切断の確認」画面が表示されるので、「ボリュームの切断」を押下します。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

つながり。驚きを。幸せを。



以下を参照して、コントロールパネルのボリューム一覧画面から、削除したいボリュームを選択し、「ボリュームの削除」を実行します。

ボリュームの削除方法

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

【移行元サーバの削除】

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

以下を参照して、移行元サーバを削除します。

インスタンスの削除

1.1.3 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server）データ移行手順

- APIを利用した移行作業内容および詳細
 - APIを利用した手順について、現時点での準備はございません。

■ 切り戻し方法

- 「手順6. 移行元サーバの削除」前であれば、移行元環境が残っているため、切り戻しが可能です。
- 「手順6. 移行元サーバの削除」後の切り戻しはできません。
- 必要に応じて、以下手順を参考にサーバーインスタンスのスナップショット作成やバックアップの取得をご検討ください。

[2.6. インスタンスのスナップショットを作成する - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[5.2. ボリュームをイメージ管理へアップロードする - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[4. Arcserve UDP 10.0を用いたSmart Data Platform でのバックアップリストア運用例](#)

1.1.3 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server）データ移行手順

つながり。驚きを。幸せを。



■ 手順通り進まない場合の対処方法

- エラー等が発生した場合や手順に関する不明点がございましたら、チケットシステムよりチケット起票いただきお問い合わせください。

※チケット起票手順につきましては、「[SDPFクラウド/サーバー関連チケット起票方法](#)」をご参照ください。
お問い合わせ内容によって下記区分をご選択ください。

- | | | |
|---------------------|---|-----------------------------|
| Incident Submission | : | 故障・不具合に関するお問い合わせ |
| General Inquiry | : | 設備更改のガイドラインおよび手順書に関するお問い合わせ |